

三加和町文化財調査報告 第7集

田中城跡

VII

1993

熊本県玉名郡
三加和町教育委員会

三加和町文化財調査報告 第7集

田中城跡

VII

1993

熊本県玉名郡
三加和町教育委員会

序

教育委員会では、昭和61年度から県指定史跡「田中城跡」の発掘調査を実施しています。

7年目を迎えた本年は、『迎春・和仁仕寄陣取図』で和仁軍の建物跡と思われるものが描かれている部分の調査を行いました。その結果、和仁側の兵舎跡と思われる建物遺構が検出され、今後さらに専門的な検討を加える必要もありますが、この陣取図の正確さが裏付けられたことになりそうです。

本書は、その事実を報告するもので、本書が埋蔵文化財への理解を深める手助けとなり、併せて研究資料として活用していただければ幸いです。

調査に際し、有益な御助言をいただいた専門調査委員の先生をはじめ、協力いただきました多くの方々に心より感謝致します。

平成5年3月31日

三加和町教育長 坂梨 五十鈴

例 言

1. 本書は熊本県玉名郡三加和町が「田中城総合整備計画」の一環として、平成4年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 本調査は、国庫・県費補助事業として三加和町教育委員会が実施し、黒田裕司がその任にあたった。
3. 遺物および遺構の実測・製図・写真撮影拓本は黒田が行った。
4. 遺構については、専門調査委員のご教示を得た。
5. 出土遺物は、三加和町教育委員会で保管している。
6. 本書の執筆・編集は黒田が行った。

本文目次

第1章 序 説	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査組織	1
第3節 調査経過	2
第2章 調査の成果	13
第1節 調査の概要	13
第2節 遺構と遺物	14
第3章 まとめ	16

挿 図 目 次

第1図 遺構配置図	5
第2図 出土遺物実測図	15
第3図 田中城跡全体図	18

表 目 次

第1表 柱穴計測表Ⅰ	7
第2表 柱穴計測表Ⅱ	8
第3表 柱穴計測表Ⅲ	9
第4表 柱穴計測表Ⅳ	10
第5表 柱穴計測表Ⅴ	11
第6表 柱穴計測表Ⅵ	12

写 真 図 版 目 次

- 図版 1 (1)辺春・和仁仕寄陣取図（山口県立文書館所蔵：毛利家文庫絵図 8 9 2）
(2)調査区と推定される部分の拡大
- 図版 2 (1)調査区遠景（西より） (2)調査区近景（北より）
- 図版 3 (1)確認遺構全体写真（北より） (2)遺構近景
- 図版 4 確認遺構全体写真（北東より）

第 I 章 序 説

第 1 節 調査に至る経過

『辺春・和仁仕寄陣取図』が平成元年12月、山口県立文書館で発見されたことにより、発掘調査の方も、今までの城本体を中心とした考えから、この陣取図を参考とした調査へと変化させることを余儀なくされた。城の西側に和仁側の建物と思われるものが描かれていることから、まず、西斜面の調査を実施することとし昨年度の調査区を選定した。以前から弾正屋敷跡と言われている場所に隣接していたためかなり期待していたが、小型の掘立柱建物跡が1棟確認されただけで、残念ながら陣取図に描かれている場所ではなかったようだ。その代わり、ほぼ並行に並ぶ5条の柵列が確認され、専門調査委員会で秀吉軍の柵列と推定された。これにより秀吉軍がかなり攻め入っていたと思われ、陣取図に書かれている「仕寄」がこのことを実証することになった。

そこで、今年度は昨年度の調査区の北側に尾根を挟んで広がる平場を、陣取図に描かれている和仁側の建物跡の位置と想定して、調査に取りかかることにした。この位置は主郭部のほぼ西にあたり、井戸が掘られている崖面の下になる。また、北は主郭を取り囲むように作られた空堀の末端が堅堀に変化して、急激に切り落とされて、落ちきったところに広がる段々畑状の平場の一番裾部にあたる。新城口ともいわれているため、後世に何等かの手が加えられている可能性もあり、登城口にあたるのかもしれない。

第 2 節 調査組織

- 調 査 主 体 三加和町教育委員会
調 査 責 任 者 坂梨五十鈴 (教育長)
調 査 事 務 小山 暁 (社会教育課課長)
高木洋一郎 (社会教育主事)
調 査 員 黒田 裕司 (社会教育課主事)
専門調査委員 石井 進 (東京大学名誉教授・国立歴史民俗博物館館長)
岡田 茂弘 (国立歴史民俗博物館教授)
原口 長之 (熊本県立装飾古墳館館長)
田邊 哲夫 (日本考古学協会員・玉名歴史研究会代表)
北野 隆 (熊本大学工学部教授)
工藤 敬一 (文学部教授)
阿蘇品保夫 (熊本県立美術館教育審議員)

大田 幸博（熊本県文化課参事）

発掘作業員 霧 オワリ・霧 かよ子・霧 サカエ・福原 房子・辺原 絹代・
松尾ミツノ・福原 都・霧 邦代

発掘協力者 中村幸史郎（山鹿市立博物館副館長）・坂本 重義（南関町教育委員会）
浦田 信智（西合志町教育委員会）・五嶋 竜山（鹿山焼竜山窯）・
霧 明春（地権者）

第3節 調査経過

6月1日 発掘調査開始。

調査区が二筆に分かれているため、まず狭い方（Ⅱ区）を排土場にして、広い方（Ⅰ区）から調査を開始した。

古くから桑畑・水田・畑といろいろ利用されており、上段からの土壌の流れ込みなどがあって、かなり変化している様子である。

6月16日 プレハブ建設。

6月24日 鉄砲玉 出土。遺物も小片だが出土しだした。

6月25日 表土剥ぎとあわせて遺構検出を行っていたが、全く遺構が見られず、南端を掘り下げてみると柱穴が確認された。この面でいいのかまだ疑問が残るので再確認の必要あり。

瀬高町老人会見学。（56名）

6月28日 植木町歴史研究会見学。（18名）

6月30日 学習グループ「ふるさと」見学。（28名）

7月1日 遺構の確認が困難なため、十文字に土層確認のためのブリッジを残し、掘り下げる。

7月6日 鉄砲玉 出土。

7月7日 四分割したうちの北東部分をさらに掘り下げる。遺物も出土することだし、やはり、もう少し掘り下げる必要があるそう。

7月8日 西合志町史跡愛好会見学の下見。（4名）

7月9日 北側の二面は、あと一枚剥げば遺構が確認できるところまできたが、南側二面は、まだ20cm程ありそうなので、もう少し時間がかかりそう。

鉄砲玉 2個、染付の小片など出土。

8月1～3日 静岡市で開催された第9回全国城郭研究者セミナー（シンポジウム「中世城郭の保存と活用」）で田中城について報告。

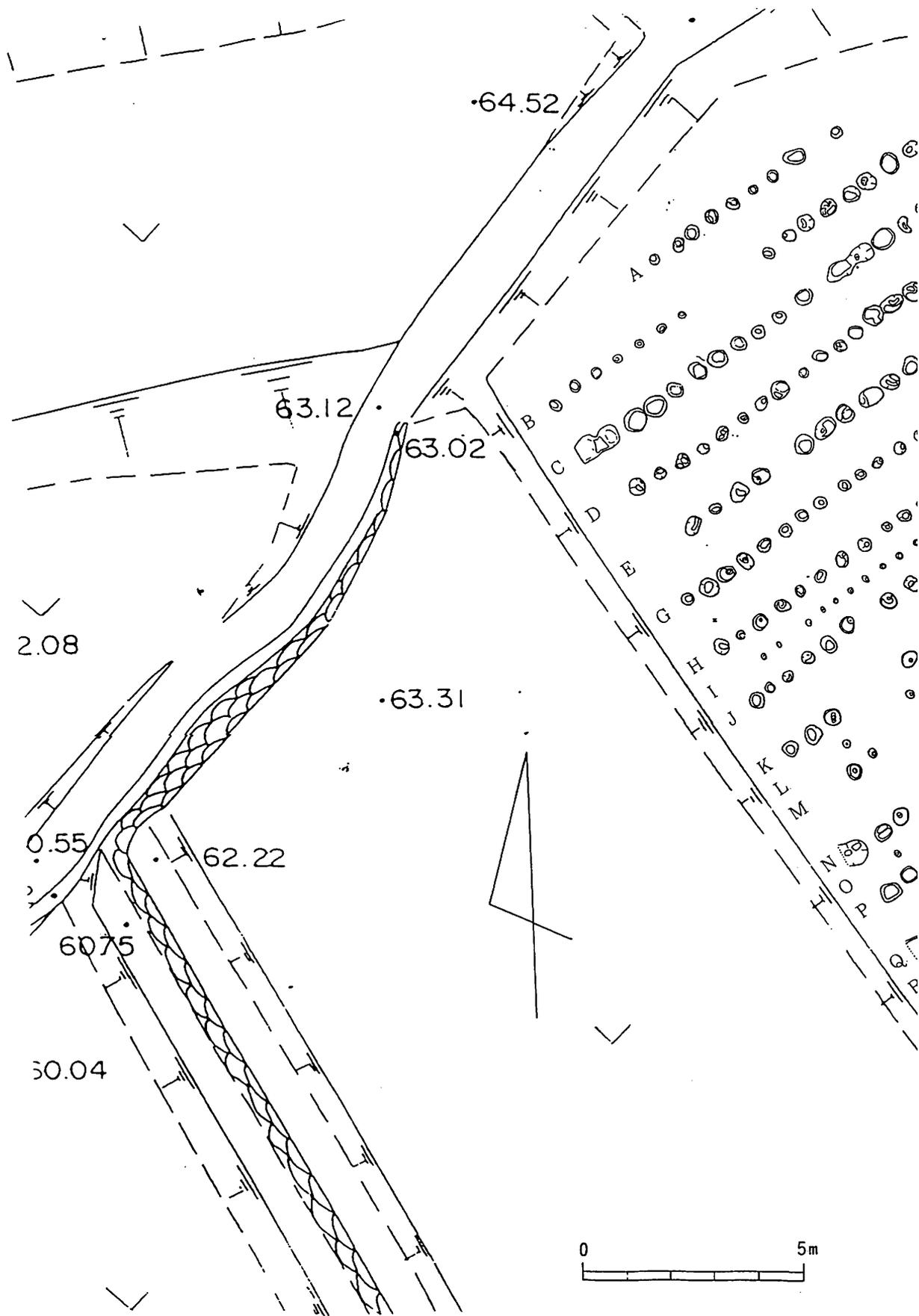
8月4日 菊池神社を守る会見学。（28名）

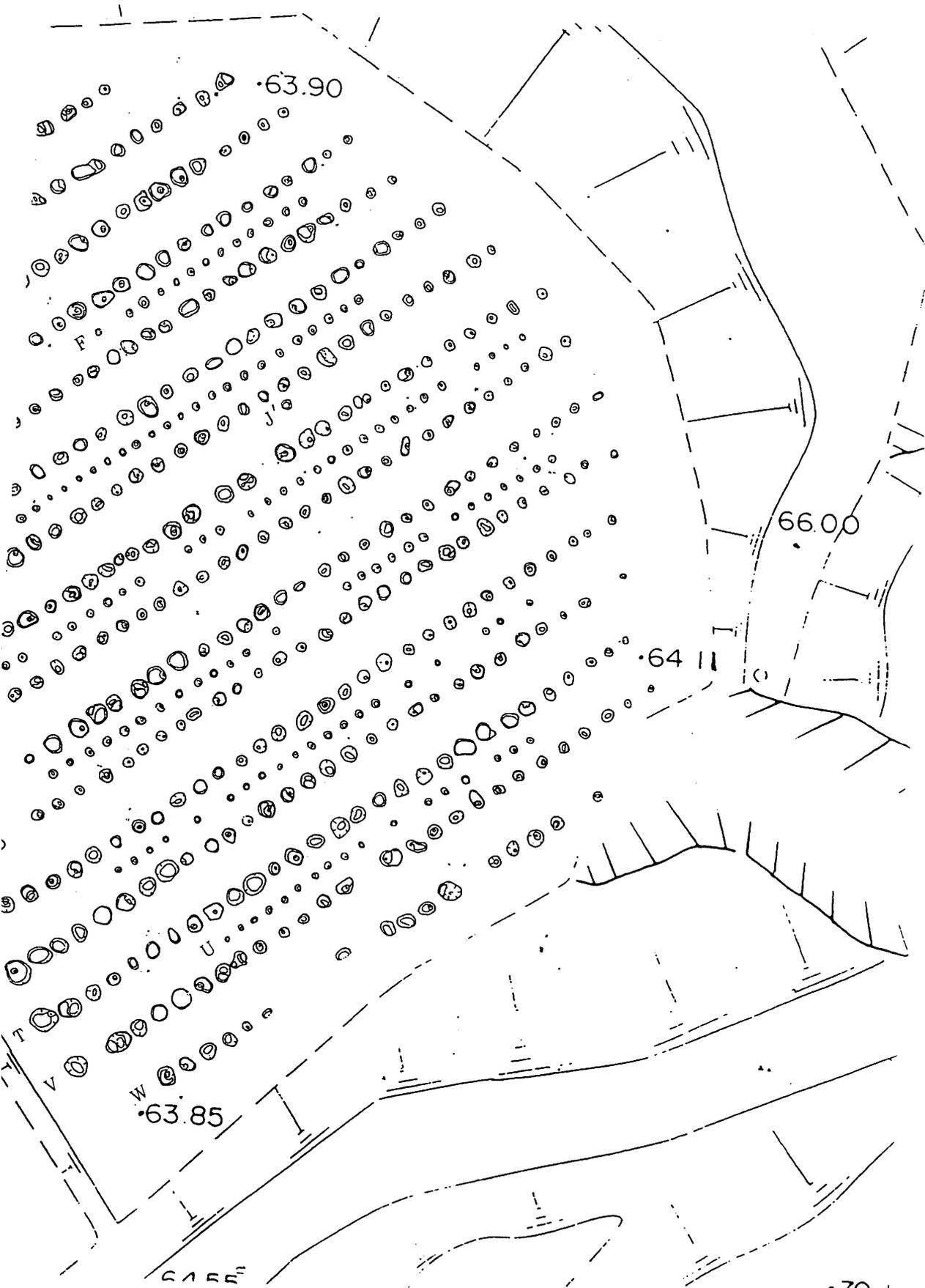
- 8月6日 鉄砲玉 出土
田中 祥彦氏（中世城郭研究会）見学。
- 8月15日 北垣聡一郎氏（中世城郭研究会）見学。
- 8月19日 ようやく地山と思われる硬い面が見え始める。柱穴と思われるものも若干確認される。
- 8月21日 約1m間隔で整然と並ぶ柱穴と思われる痕跡を11列確認。以前桑を植えていたということなので、もしかするとその可能性も考えられるが、その場合桑の根が丸く残るか、またどのくらいの深さまで入るか疑問もあり、精査する必要がある。
- 8月25日 鉄砲玉 2個出土。
- 8月26日 全面の遺構確認をおおまかに終了。17列確認。しかし、晴天が続き土色の確認が困難で、城に関連あるものかどうか判断が出来ない。
ちくご歩こう会見学。（40名）
- 8月28日 鉄砲玉 出土。8個目となり激戦のあとを想像させる。
今年も散水しながらの調査になる。
- 8月30日 立花町文化連盟郷土史部見学。（20名）
晴天が続き、散水して作業を行っても遺構の確認が全く困難となったため、雨が降るまで作業を中断することにする。
- 9月8日 西合志町郷土史愛好会見学。（77名）
- 9月10日 南関郷JA婦人部姑会なでしこ会見学。（15名）
- 10月13日 三加和町郷土史講座生見学。（17名）
- 10月27日 西合志町中央コミュニティ委員会見学。（36名）
- 10月29日 鳥栖から見学。（大型バス2台）
- 11月4日 昨夜雨が降ったため、二ヵ月振りに作業を再開したが、やはり水不足がたたり、まだほとんどガチガチの状態が続いている。今後の予定が全くたてられない。
- 11月12日 遺構確認を続けるが、埋土までガチガチの状態。
- 11月16日 中村幸史郎山鹿市立博物館副館長見学。
- 11月21日 三加和町成人学級生見学。（8名）
昨日からの雨で、ようやく遺構確認がしやすくなった。半分程終えたが、以前確認していた柱列の間に小さな柱列もあるようだ。
- 11月26日 遺構確認写真撮影。
- 12月1日 遺構の発掘にかかる。
10～25cmと比較的浅く、上部がカットされ底部だけが残っているようだ。

- 12月13日 北野 隆熊本大学工学部教授現地視察。
柱穴の並び、主郭との位置関係、井戸が近いことなどから和仁軍勢が寝起きしていた高床式の掘立柱建物跡ではないかと指摘された。
- 12月16日 山鹿市西付城発掘調査団見学。(16名)
- 12月19日 森山恒夫熊本大学文学部教授視察。

平成5年

- 1月11日 遺構実測開始。(1/20)
- 1月18日 平成4年度発掘調査現地説明会。(60名)
北野 隆熊本大学教授をむかえて開催。雨が降り、寒い天候にも関わらず多数の人が集まる。今年度までの発掘経過を教育委員会で説明したあと、北野教授が今回確認された遺構について解説。
鹿児島県知覧町教育委員会・文化財保護委員会視察。(7名)
- 1月19日 球磨地方町村教育委員会連絡協議会見学。(14名)
遺構実測を取り終えたところから、埋め戻しを始める。
- 2月5日 長崎県長与町視察。(8名)
隈 昭志県教育審議員・前川清一参事視察。
- 2月11日 第16回戦国肥後国衆まつり
バスツアー一行・まつり見学者多数見学。
- 2月15日 多良木町公民館分館長見学。(43名)
- 2月24日 玉名郡内議長・副議長会见学。(20名)
- 3月5日 I区の遺構実測図がまだ終了しないが、終えた部分に土を上げてしまい、II区の発掘にかかる。
熊本市ボランティアセミナー見学(55名)
春富小学校探検クラブ見学。(12名)
- 3月9日 玉名市婦人健康教室見学。(30名)
- 3月11日 II区からは遺構が全く確認できず、埋め戻しにかかる。
- 3月14日 第31回生涯学習推進大会で発掘成果を町民に報告。(約250名参加)
- 3月17日 春富小学校3年生「郷土学習」で見学。(26名)
- 3月20 石井 進東京大学名誉教授・田邊哲夫玉名歴史研究会会長を招いて、平成四
～21日 年度田中城跡専門調査委員会を開催。
国衆一揆顕彰会議参加市町の文化財保護委員など17名が参加。
鳥栖市教育委員会市民学級講座生見学。(30名)
- 3月23日 鹿本町文化財保護委員視察。(6名)





遺構配置図

・70 |

第1表 柱穴計測表 I (西より)

(単位: cm)

長径	短径	深さ									
A			25.0	20.5	6.4	D			24.0	21.5	12.1
23.5	22.0	12.2	25.5	23.0	7.9	38.5	35.0	13.7	E		
32.5	24.5	15.7	C			26.0	26.0	22.4	46.0	29.5	9.5
34.0	31.0	11.6	105	54.0	11.4	38.0	30.0	14.1	28.0	22.0	9.4
32.5	28.0	10.5	53.5	50.0	8.2	24.5	23.5	21.6	44.5	36.5	12.2
31.0	26.5	10.4	54.5	48.0	9.1	35.5	25.0	18.1	43.0	36.5	10.8
21.0	20.5	10.6	36.0	31.5	10.5	25.0	22.0	13.8	45.5	45.0	9.1
24.0	23.0	9.0	42.5	33.0	8.0	32.5	26.0	12.1	53.0	40.0	14.6
53.0	34.0	17.3	42.5	38.5	10.5	42.5	38.5	9.4	40.0	38.5	9.7
27.5	25.0	13.1	35.0	32.0	12.5	23.0	21.0	13.9	59.0	40.5	9.9
B			32.0	30.5	11.5	37.0	24.5	13.3	43.0	35.0	12.8
29.0	22.0	12.9	34.0	29.0	8.9	30.5	26.5	14.6	44.0	33.5	11.2
27.0	24.0	6.1	39.5	34.5	10.2	34.0	29.0	10.6	29.5	28.0	9.3
25.5	25.0	7.5	127	40.0	20.9	48.0	46.0	11.1	31.0	26.5	10.9
21.5	19.0	9.2	56.0	45.0	9.0	54.0	35.0	18.4	44.0	41.0	14.0
20.0	17.0	11.8	42.5	25.0	6.8	46.0	46.0	11.2	52.5	33.5	8.7
22.5	19.0	6.3	45.0	26.0	9.7	38.0	38.0	9.7	39.5	34.0	13.2
16.0	13.0	5.9	34.5	32.0	11.5	32.0	28.0	13.2	45.0	35.5	6.0
29.5	25.0	9.9	83.5	33.5	11.4	46.0	34.5	18.2	37.0	31.5	6.6
30.0	28.5	6.5	33.5	28.0	9.0	45.0	40.0	13.2	32.5	30.0	12.1
37.5	31.0	3.8	34.5	24.0	9.2	32.0	32.0	10.7	27.5	27.5	6.6
42.0	36.0	11.5	29.5	24.0	9.7	40.0	36.5	11.2	33.5	32.0	9.7
39.5	36.0	8.9	32.0	25.0	10.6	49.5	42.0	13.7	25.5	22.0	7.8
46.5	38.0	13.2	35.0	28.0	9.4	47.5	45.0	9.9	34.0	26.5	10.7
46.0	42.5	6.1	44.0	34.0	9.1	37.0	37.0	7.8	23.0	21.5	10.3
40.0	32.0	8.5	C'			28.0	22.0	9.5	34.0	31.5	8.3
45.0	31.5	8.3	19.5	18.0	7.9	28.5	22.5	9.4	20.0	19.0	9.0
39.5	28.0	8.2				29.5	22.5	9.5	20.0	19.0	6.8

第2表 柱穴計測表II

(単位: cm)

長径	短径	深さ									
F			25.0	22.0	13.5	24.0	21.0	9.5	14.5	13.0	3.9
17.0	15.0	4.5	31.0	25.5	14.1	30.0	25.5	10.5	14.0	13.0	2.7
20.0	15.0	6.7	25.5	21.5	12.3	30.0	24.0	10.6	20.0	12.0	4.2
25.0	22.0	5.8	27.5	27.0	12.9	37.0	26.0	5.4	14.0	12.0	4.2
17.0	12.0	8.0	32.5	29.5	10.1	34.5	26.0	8.9	18.0	15.5	2.8
18.5	12.5	9.6	41.0	30.5	10.7	33.0	28.5	9.3	16.0	14.5	4.1
17.0	15.5	6.3	34.0	25.0	13.3	29.5	24.0	13.6	20.0	20.0	12.1
17.0	16.0	5.1	30.0	27.0	10.2	38.0	34.0	12.3	16.5	14.0	4.4
19.5	13.0	4.1	48.5	34.5	10.8	53.0	41.0	19.4	13.5	10.0	3.2
17.5	17.0	5.7	29.5	28.0	15.3	31.5	28.0	15.0	12.5	12.0	2.3
19.5	14.0	4.0	35.0	21.0	12.5	37.0	29.0	8.5	16.0	11.5	4.7
19.0	19.0	4.8	40.5	33.5	14.6	41.0	24.0	5.2	17.0	13.0	4.8
20.5	16.5	4.1	40.5	38.0	13.2	38.5	33.5	6.3	18.0	13.5	3.9
20.5	19.5	5.5	39.0	32.5	12.6	32.0	30.0	7.8	18.0	15.0	4.7
G			46.5	43.5	14.4	40.0	32.0	12.7	20.5	19.5	4.8
28.0	27.0	15.7	40.5	22.5	10.5	41.5	34.5	11.5	16.5	15.0	5.2
42.5	42.5	11.1	29.5	25.0	15.1	36.0	33.5	12.8	17.5	16.0	5.4
43.0	34.0	15.3	24.0	22.0	15.7	43.0	31.5	6.2	16.0	13.0	4.8
41.5	40.5	15.3	20.5	18.5	11.8	22.5	19.5	5.8	20.0	17.0	7.7
37.5	29.0	13.5	H			42.0	31.5	9.0	18.0	17.0	7.8
31.0	30.5	14.8	38.5	33.5	9.7	27.0	19.5	10.0	18.5	18.5	6.9
32.0	28.0	12.9	20.0	19.5	6.3	24.4	22.0	11.9	21.5	18.0	5.9
32.0	28.5	16.8	39.0	32.5	15.5	30.0	29.0	9.6	21.0	19.0	6.5
29.0	25.0	16.0	38.0	28.0	9.4	I			19.0	14.0	8.0
26.0	24.0	14.6	28.0	24.0	10.0	16.0	11.5	4.9	22.5	21.5	9.0
28.0	22.0	17.3	29.0	28.0	12.1	13.5	11.0	4.0	23.0	20.0	11.8
28.5	27.5	17.2	37.0	28.5	13.2	17.0	13.0	4.7	22.0	21.5	6.2
30.0	25.0	14.1	30.0	29.0	11.4	14.0	9.5	3.7	17.0	16.5	6.9

第3表 柱穴計測表Ⅲ

(単位: cm)

長径	短径	深さ	長径	短径	深さ	長径	短径	深さ	長径	短径	深さ
23.0	20.0	6.8	28.0	23.5	12.2	37.5	34.5	10.0	18.0	15.0	6.3
J			27.0	22.5	10.7	35.0	32.0	9.7	18.0	13.0	5.6
36.5	34.5	13.8	25.5	19.0	7.6	29.0	18.5	5.3	19.0	16.0	6.3
23.0	21.0	6.5	30.0	25.5	8.2	21.5	17.0	13.2	19.5	19.0	10.2
26.0	25.0	10.2	34.0	29.5	14.4	24.0	21.0	11.7	22.0	22.0	7.2
32.0	28.5	12.7	21.0	19.5	9.3	36.5	27.5	15.6	21.5	20.0	8.4
42.5	32.0	11.0	J'			24.0	24.0	10.4	22.0	16.5	6.2
38.0	32.0	12.1	26.0	22.0'	6.8	25.0	21.5	11.2	19.5	16.0	7.1
38.0	35.5	12.4	K			25.0	22.0	9.4	17.0	14.5	4.8
40.0	36.0	11.5	34.0	33.5	12.9	23.5	22.5	8.4	21.5	19.5	6.1
46.5	40.5	15.3	40.0	39.0	13.0	34.0	19.5	9.5	22.0	17.5	10.7
39.0	30.0	12.4	38.0	36.0	12.5	24.5	24.0	7.5	17.0	11.5	3.1
32.5	29.5	11.9	38.0	34.5	11.0	L			14.5	12.5	3.6
37.0	35.0	13.4	33.5	32.5	10.9	19.5	18.0	6.0	12.0	11.0	5.5
30.5	28.5	9.4	45.0	35.0	12.1	18.5	17.5	7.0	16.0	14.5	4.0
24.0	23.0	9.1	30.0	26.0	12.4	18.5	17.0	5.4	M		
34.0	34.0	14.6	41.5	33.0	12.7	20.0	20.0	5.9	37.0	33.0	13.1
32.0	31.0	12.9	38.5	38.5	13.3	20.5	19.0	7.4	23.0	17.0	10.4
32.5	30.0	13.9	39.0	30.0	13.7	20.0	18.5	7.8	31.5	26.0	14.8
38.0	35.5	12.0	26.5	24.0	9.5	18.5	17.5	6.9	30.0	28.0	15.8
36.0	26.0	10.7	32.0	29.5	13.9	22.0	21.0	5.6	36.5	24.5	10.4
27.5	21.5	8.8	36.5	31.0	13.4	16.0	15.5	7.2	36.0	29.0	10.5
29.0	21.5	5.1	43.0	40.5	16.7	22.0	22.0	6.3	29.5	25.5	10.3
30.5	28.0	10.4	48.5	40.5	11.4	18.0	15.0	4.3	28.0	25.0	10.4
34.0	27.0	9.4	43.5	38.0	10.7	20.5	16.0	5.9	27.0	23.5	10.6
46.0	36.0	19.0	43.0	38.5	13.0	22.0	18.0	8.1	31.5	28.0	7.8
35.0	32.5	12.2	47.0	41.0	15.9	18.0	11.5	5.0	35.0	34.0	13.0
38.0	33.5	12.6	45.5	35.0	11.3	15.5	12.0	6.8	28.0	27.0	9.0

第4表 柱穴計測表IV

(単位: cm)

長径	短径	深さ									
29.0	26.5	9.2	45.0	43.0	10.5	23.0	22.5	7.5	24.0	19.5	9.8
36.0	27.0	13.5	49.0	44.5	7.2	26.0	17.5	8.0	32.5	30.0	11.0
28.0	26.0	12.1	28.0	24.5	9.3	18.5	16.5	5.6	26.0	22.0	6.1
32.0	26.5	13.1	35.5	31.0	11.3	19.0	16.5	5.0	26.0	25.0	11.8
28.0	24.5	13.2	37.5	32.0	8.4	20.0	19.0	6.6	25.0	22.5	10.9
23.5	22.0	14.4	38.5	36.5	10.3	19.5	17.0	6.0	23.5	20.0	11.9
44.0	34.0	10.6	33.0	30.5	9.7	16.0	13.0	4.2	36.5	22.5	7.3
34.0	26.5	10.0	28.5	19.0	6.2	18.0	17.0	5.8	32.0	29.5	7.6
24.5	22.0	15.8	32.0	29.5	7.3	17.5	16.0	6.1	25.0	20.5	7.1
45.0	20.0	12.9	25.0	23.5	8.1	20.0	19.0	6.7	20.5	17.0	9.8
25.0	24.0	11.5	25.0	22.5	10.5	19.0	18.0	8.0	35.0	27.0	9.6
31.5	23.0	10.1	34.0	30.0	9.3	22.0	20.0	7.8	22.5	20.0	7.9
26.0	24.0	9.1	24.5	20.0	10.0	23.0	16.0	8.3	33.5	28.0	9.0
22.0	20.0	8.6	29.5	21.5	9.2	23.5	22.0	9.5	25.0	25.0	6.4
19.0	16.5	8.7	37.0	25.0	8.5	19.0	18.0	6.7	34.0	31.0	7.8
20.0	18.0	8.1	24.0	22.0	9.0	17.0	16.0	4.5	33.5	31.0	5.5
31.5	29.5	16.8	25.0	24.0	10.4	16.0	14.5	5.9	26.5	25.0	6.7
24.0	24.0	14.4	23.5	19.5	9.9	16.5	16.5	5.8	31.0	24.0	9.4
N			20.0	16.0	6.3	16.5	12.0	5.8	36.0	36.0	12.3
59.5	55.0	28.6	24.0	19.0	8.9	18.0	13.5	3.8	30.0	28.0	9.1
42.5	36.0	16.6	24.5	21.0	8.9	18.5	16.0	6.4	42.5	32.0	7.0
39.0	35.0	7.5	26.0	15.5	5.0	17.5	17.0	4.5	29.5	23.5	8.5
23.0	18.5	6.7	O			P			25.0	21.0	13.2
45.0	37.0	8.4	17.5	12.5	4.6	45.0	40.0	9.0	20.5	17.5	9.7
47.5	41.5	11.9	20.0	20.0	6.4	36.0	34.5	6.4	32.0	21.5	8.1
48.0	44.0	10.9	17.0	16.5	4.6	35.0	29.0	5.0	20.0	18.0	5.1
37.0	36.5	12.9	23.0	16.0	6.6	30.0	24.5	12.6	18.0	16.5	4.0
43.0	40.0	11.6	24.0	21.5	8.2	27.0	23.5	12.4			

第5表 柱穴計測表V

(単位: cm)

長径	短径	深さ									
Q			24.0	22.5	11.8	41.5	33.0	8.9	T		
58.0	58.0	10.8	22.0	21.5	8.7	42.5	32.5	8.5	65.0	58.5	15.3
36.0	36.0	13.8	18.0	16.5	6.6	44.0	42.0	9.1	54.0	47.0	10.7
40.0	32.0	10.8	19.5	18.5	7.3	44.0	40.0	12.7	38.0	34.0	9.6
32.5	32.0	9.5	R			42.0	38.0	10.4	35.0	30.0	10.2
38.0	34.5	11.1	15.0	13.5	4.1	55.0	45.0	9.0	31.0	21.0	6.6
38.0	36.0	10.1	18.5	14.0	5.0	32.0	28.5	9.0	39.0	34.0	6.9
29.0	28.0	6.8	15.0	15.0	4.0	32.0	30.5	8.5	38.0	22.0	5.8
32.0	30.0	10.7	15.5	15.0	5.7	38.0	29.0	10.2	38.5	35.0	12.6
31.0	30.0	8.6	17.0	16.0	4.9	24.0	22.5	11.2	42.0	36.5	11.9
36.0	32.0	7.8	18.0	16.0	4.9	40.0	38.0	12.6	40.5	40.0	10.2
33.0	32.0	8.5	14.5	14.0	5.0	32.5	30.0	11.5	57.0	45.0	11.7
27.5	25.0	5.2	16.0	16.0	4.9	36.0	35.0	9.5	29.0	26.0	11.3
24.5	22.5	8.2	14.0	10.5	5.5	41.5	35.0	9.3	42.5	34.0	13.6
30.5	30.0	8.8	16.0	12.0	4.0	39.0	34.5	10.1	42.0	31.0	10.1
35.5	34.0	9.9	21.5	15.0	6.4	26.5	22.0	11.0	47.5	45.0	10.6
44.5	33.5	10.2	18.0	18.0	5.0	26.0	21.0	7.2	38.0	36.0	8.9
40.0	34.5	13.0	20.0	17.0	7.0	35.0	22.0	7.3	34.5	30.5	10.8
36.0	30.0	10.2	19.5	18.5	6.4	19.0	17.5	7.6	40.0	31.0	9.6
31.0	30.0	8.2	20.0	20.0	6.8	23.0	21.0	6.9	36.0	34.0	16.6
41.0	35.0	9.2	16.5	16.0	4.0	32.5	32.0	9.7	35.0	34.0	10.0
27.0	25.0	7.9	15.0	12.5	3.4	30.5	26.0	11.7	50.0	36.0	7.6
25.5	24.0	8.9	16.5	15.0	5.1	32.5	31.5	11.7	40.0	36.0	8.1
30.5	26.0	9.8	15.5	15.5	3.3	29.0	27.0	8.4	41.5	31.5	8.3
34.0	30.0	8.6	14.0	12.0	4.1	19.0	14.0	8.4	40.5	31.5	10.5
30.0	24.0	11.1	S			27.0	20.0	6.8	31.0	25.0	19.0
27.5	24.0	9.5	60.5	56.0	18.5	15.0	10.5	6.9	30.0	23.0	7.9
31.5	27.5	10.3	54.0	41.5	11.0				24.0	19.0	8.0

第6表 柱穴計測表VI

(単位：cm)

長径	短径	深さ	長径	短径	深さ	長径	短径	深さ	長径	短径	深さ
19.0	19.0	9.0	45.5	36.0	11.5	40.5	31.5	12.0			
18.5	13.5	8.1	32.0	29.5	18.4	41.0	29.5	14.2			
U			25.0	23.5	13.6	53.0	43.0	12.7			
13.0	13.0	3.4	28.0	22.5	11.5	28.0	27.0	13.5			
17.5	11.0	4.6	33.5	31.5	14.5	33.5	27.0	14.1			
18.0	14.5	4.5	46.0	31.5	14.5	39.0	37.0	14.1			
20.0	15.0	4.4	50.0	41.5	18.0	32.5	32.5	14.0			
16.5	16.0	5.0	46.5	21.0	10.6	22.5	21.5	8.3			
15.0	14.0	4.8	34.0	33.5	15.0						
15.5	14.5	6.6	36.0	26.0	7.4						
18.0	17.0	7.2	46.0	27.5	10.2						
18.0	15.5	4.9	29.5	19.5	14.2						
17.5	12.5	5.5	25.5	23.5	11.8						
14.5	14.0	5.4	26.5	26.0	8.1						
16.0	16.0	5.6	26.0	25.0	9.3						
19.0	12.5	5.9	26.5	23.0	7.0						
19.0	19.0	4.2	31.0	26.0	8.7						
16.0	14.5	4.5	19.0	15.5	6.5						
18.0	17.5	6.0	16.5	13.0	8.2						
16.5	13.0	4.4	W								
V			43.0	37.5	11.3						
51.5	46.5	15.3	39.5	28.0	10.3						
66.5	46.0	10.7	39.0	36.5	10.8						
40.0	35.5	11.5	35.0	29.5	10.2						
39.0	38.0	7.6	24.0	19.5	10.1						
48.0	46.5	9.0	26.0	13.5	6.6						
44.5	32.0	12.3	37.5	21.0	13.0						
45.0	36.5	9.9	36.0	29.0	13.8						

第Ⅱ章 調査の成果

第1節 調査の概要

調査区は二筆の畑に分かれている。そこで広い方をⅠ区、狭い方をⅡ区として調査を開始した。まずⅠ区の表土剥ぎから作業に取りかかり、Ⅱ区を排土場とした。

昨年までであれば20cmも掘り下げると遺構が確認されていたが、今年度はなかなか確認できず、念のため四分割して土層を確認しながらの調査となった。それでも確認が困難であったため、全体をある程度まで掘り下げた段階で、四分割したうちの北西部分の北隅にトレンチを入れ遺構の確認をはかった。その際、約10cm下方からガチガチに固まった面が現われ、その面からほぼ東西方向に並ぶ柱穴と思われる痕跡が確認されたため、全体を掘り下げることにした。全体を一応このガチガチに固まった面まで掘り下げると、ほぼ1m間隔でほぼ東西方向に整然と並ぶ柱穴列が姿を現わした。しかし、今年は極端に雨が少なく、9～10月にかけては現場を中止する状態であり、11月に入っても埋土までガチガチに固まってしまい、なかなか確認が出来なかった。当初は桑の根ではないかとの意見もあったが、埋土は古いものであり、桑の根は今回確認されたもののように円形を成さないことを11月26日に来跡した山鹿市立博物館の中村副館長から指摘された。12月になって、ようやく遺構の確認ができる状態になると柱列は大きな柱列が17列、小さな柱列が6列の合せて23列が確認された。しかし、総数で約600個にもなり、あまりに奇麗に並んでいるため性格については全く見当がつかなかった。そこで12月13日に専門調査員の北野隆熊本大学教授を招いて検討をしていただき、和仁軍勢の生活拠点となった長屋（兵舎）跡ではないかとの指摘を受けた。さらに、平成5年1月18日に再度北野教授を招いて現地説明会を実施した。あいにく雨天で非常に寒い天気だったが、町内・外から約60名の参加があった。

1月になってようやく遺構図の実測に取りかかり、取り終えたところから埋め戻しを行っていった。

3月になりⅡ区に置いていた土を除いてしまったので、Ⅱ区の調査にかかった。当初は日程の都合で南側半分だけの調査を予定して行っていたが、遺構が全く確認できなかつたため、残りの北側半分も調査を行った。しかし、結果は同様で全く遺構の確認はできなかつた。

第2節 遺構と遺物

(1) 遺構 (第1図)

遺構としては、整然と並ぶ柱列が23列確認されただけである。全てほぼ並行に並んでおり、N56° Eに主軸をとる。柱穴の大きさには大小二通りがあり、大きいものが17列、小さいものが6列で、大きいものは長径16.0~127.0cm、短径10.0~58.5cm、深さ3.8~28.6cm、柱穴間隔約40~70cm、小さいもので長径12.0~26.0cm、短径9.5~22.5cm、深さ2.3~12.1cm、柱穴間隔約40~50cmとバラツキがある。さらに、大きな柱列の間隔は1.2~1.5mありこの間に小さな柱列が並んでいる。いずれも、後世の耕作などで上部をかなりカットされており、底部のみが辛うじて残っていたという状況であるが、大きい柱穴の方には柱痕跡の底と思われるものが多数見られた。このことから何等かの構築物があったことは確実と思われる。

(2) 遺物 (第2図)

染付・青磁・土師器などの小片が多数出土している。しかし、図化できるようなものはほとんどなく、鉛製の鉄砲玉が8個出土したことが注目される。

1は土師質の火舎。口縁部の丸味が大きく、体部との接合がうまくできていない。そのためか口唇部が焼成時にかなり剥落している。口縁直下に花文を刻印している。色調は、口縁部が赤褐色、外面は灰色、内面は黒灰色を呈し、胎土は良好だが焼成は良くない。

2も土師質の火舎。口縁部にほとんど丸味がなく、わずかな凹で体部との境をなしており、その直下に×文を刻印している。色調は内・外面とも淡い赤褐色を呈し、胎土には非常に細かな砂粒を含み、焼成は良好である。

3は瓦質の火舎。口縁部に若干の丸味を帯び、体部に台形の突帯を一条貼りつけ、その間に花文を刻印している。色調は内・外面とも灰色を呈し、胎土・焼成とも良好。

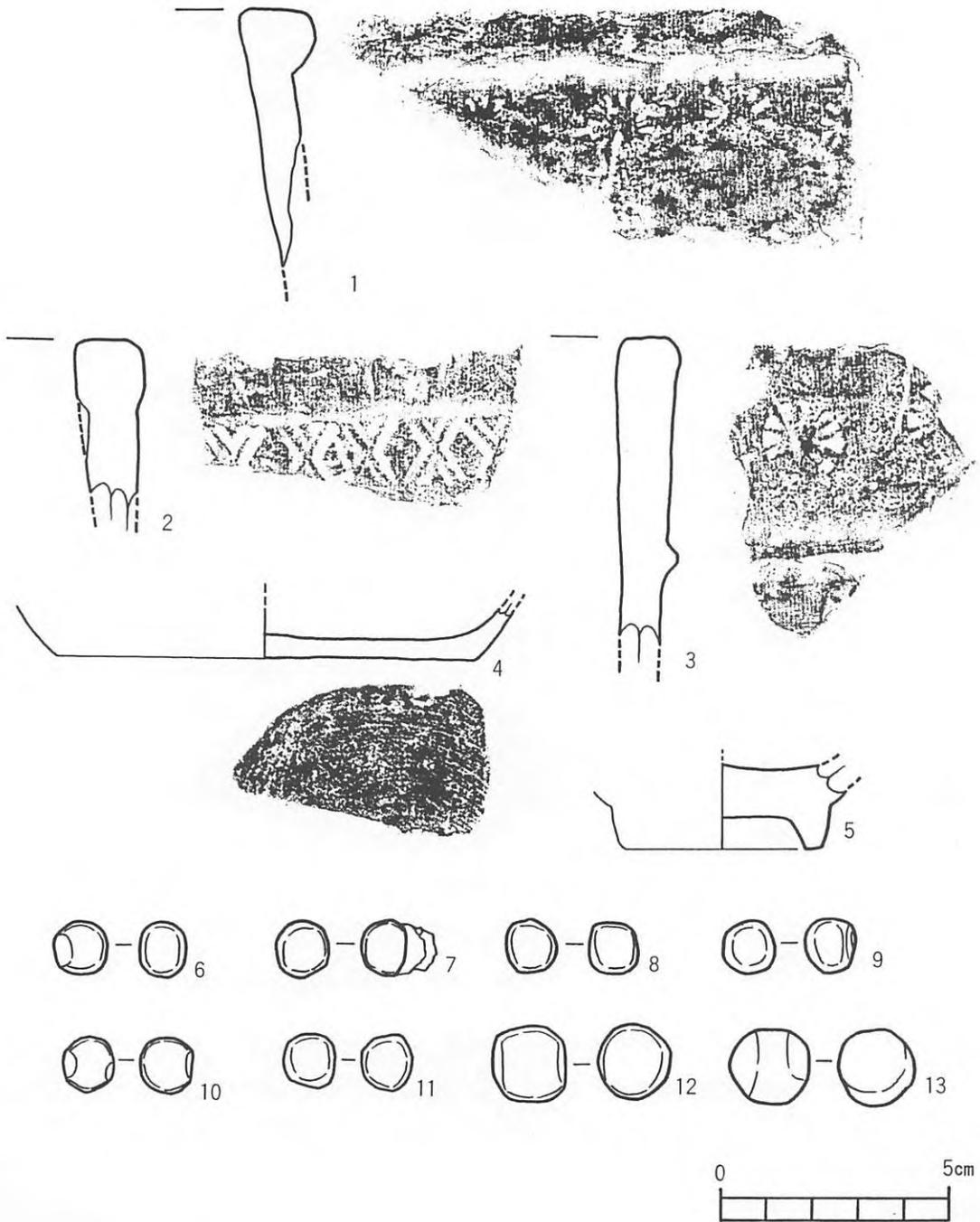
4は土師質の皿で口縁部を欠き、全体の6分の1程度を残す。推定底径9.2cm、残存高1.1cm。内面は淡い赤褐色・灰褐色、外面は赤褐色で、胎土に多量の砂粒を含み、焼成は良好。底部と体部の境ははっきりしており、やや内弯気味に立ち上がる。糸切り底。

5は青磁碗の高台部。非常に淡い青緑色の釉が、高台以外の部分に薄くかけられており胎土・焼成とも良好。高台部はかなり破損している。

6~13は表面(外見)が白色を呈していることから鉛製と思われる鉄砲玉で、直径1cm前後で重さ10g以下の小さなものと、直径1.5cm以上で重さ20g以上の大きなもの的大小二種類に分けられる。

小さい方は6~11の6個。6は直径1.10~1.11cmとほぼ球形をなし重さ5.2gで今までの出土では最小。7は直径1.02~1.16cmで、重さ6.2g。8は直径1.06~1.08cmとほぼ球形をなし重さ6.5g。9は直径0.97~1.11cm、重さ7.1g。10は直径1.09~1.15cm、重さ7.2g。11は直径1.04~1.12cm、重さ7.5g。

大きい方は12・13の2個。12は直径1.54~1.56cmとほぼ球形をなし重さ22.3g。13は直径1.61~1.70cmで重さ25.7gと今まで出土した鉄砲玉のなかでは最も大きい。



第2図 出土遺物実測図

第Ⅲ章 ま と め

昨年度に引き続き、田中城跡の西側斜面に形成されたやや広めの平坦部の調査を実施した。今年度は主郭部の西側直下に広がる部分で、『辺春・和仁仕寄陣取図』から読み取ると、田中城に立て籠もった和仁軍の建物跡と思われるものが多数描かれている部分にあたると思われた。そこで、主郭部などの調査で確認された掘立柱建物跡などが多数確認できるものと推測し調査を開始した。

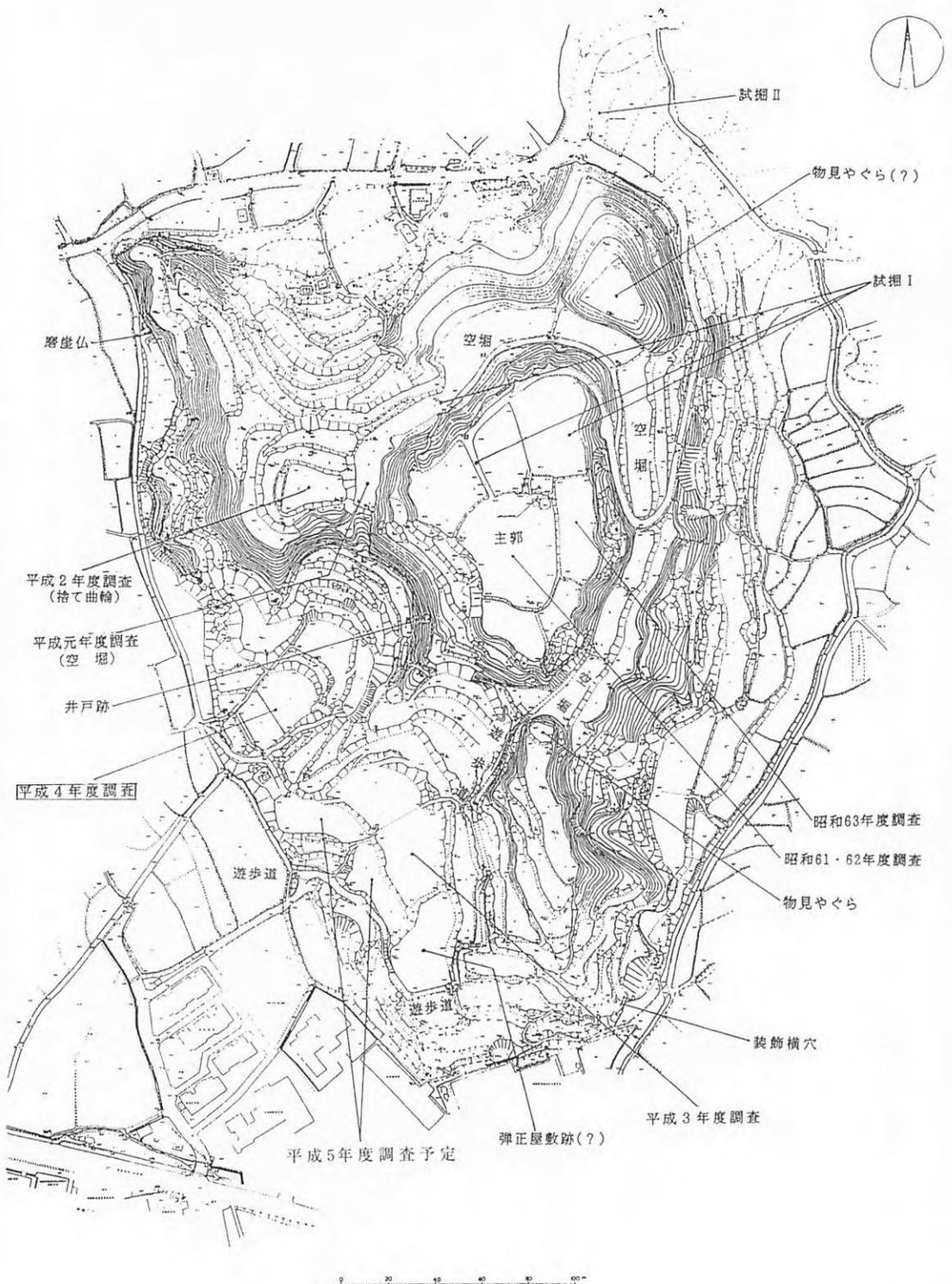
調査の結果、従来確認されていたような掘立柱建物跡は一切確認できず、ほぼ並行に並ぶ23列の柱列が調査区全面で確認された。柱列は柱穴の大きさに大小があり、大きい柱穴が17列、小さい柱列が6列である。大きい柱穴には柱痕跡と思われるものが多数見られ、何等かの建物遺構であったことは確実であろう。

専門調査委員の意見は、和仁軍の連棟式長屋（兵舎）跡ではないかということでは一致しているが、どの柱列をセットとして考えるかで異なっている。基本的に2列の大きな柱列で建物を構成することに異論はないが、これと小さな柱列をどう絡めるかということが問題である。今のところ、間に挟み東柱とする大2・小1の3列を1セットとする考えと両外側の受けとする大2・小2の4列を1セットとする考えがある。しかし、大きな柱列の間隔が1.2～1.5mしかなく、兵士が寝泊りするには狭すぎないか、また、柱穴と柱穴の間隔も非常に狭く、数が多すぎるのではないかなどの疑問が残る。さらに、これらの柱列は表土から約50～70cmと、過去六年間の調査で確認されたどの遺構よりも深いところで確認されたにも拘らず、直径が大きいということも不思議である。長屋跡と考えると、多数の人々が住まうため、主郭の建物より頑丈な作りにしたのであろうか。いずれにしても、類例がないだけに今後いろいろな面からの調査・研究が必要となろう。

遺物をもてみると、図化できないような小片がほとんどだが青磁・染付・土師器などが多く出土し、特に鉄砲玉が注目される。過去六年間で5個出土していたが、今年度だけで8個が出土した。大きさに大小二種類があり、数種類の鉄砲が使われていたと思われる。これらのことから、今年度の調査区が和仁軍の兵舎跡であったのではないかという推測は成り立つのかもしれない。

柱列は整然とほぼ並行に並んでおり、切り合いは全く見られない。このことからこの柱列は一時期に一気に作られたものと思われ、『辺春・和仁仕寄陣取図』に描かれているものが、この柱列を用いた建物遺構と考えれば、落城前に作られた可能性が強くなるのではなかろうか。主郭部直下であり、豊臣軍の総大将小早川秀包などの陣と対峙する重要な位置にあたるので、和仁軍としても護りを固める必要があったと思われ、今後もこの西側の調査は貴重な資料を与えてくれるのではなかろうか。

圖 版



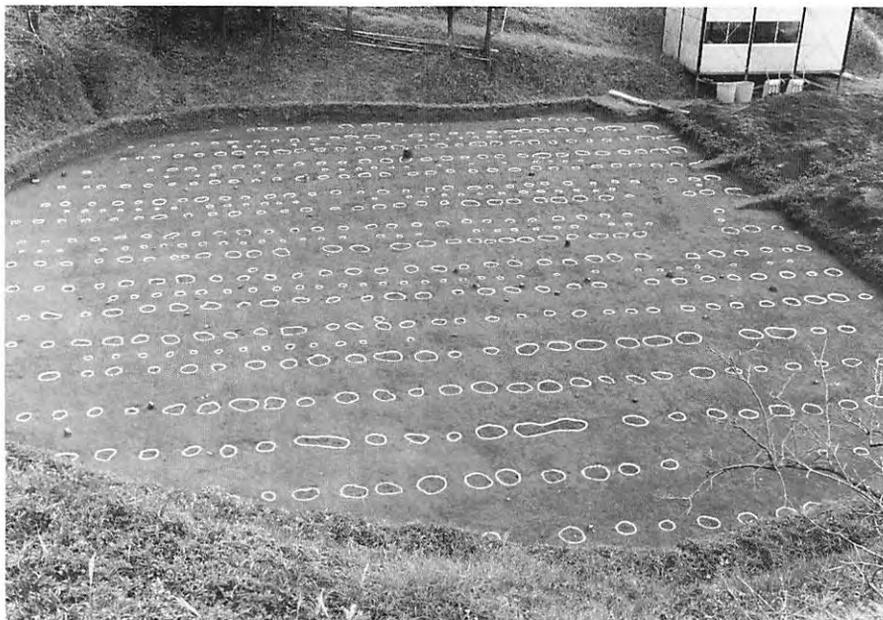
第3図 田中城跡全体図



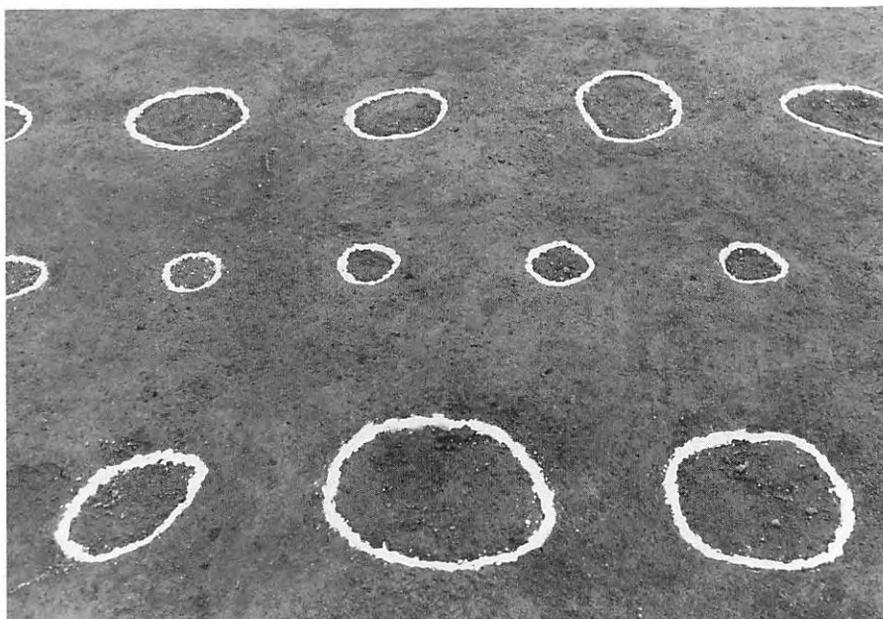
(1) 調査区遠景(西より)



(2) 調査区近景(北より)



(1) 確認遺構全体写真(北より)



(2) 遺構近景



確認遺構全体写真(北東より)

三加和町文化財調査報告 第7集

田中城跡 VII

1993年3月31日

発行 三加和町教育委員会
〒861-09
熊本県玉名郡三加和町板楠76

印刷 熊本県印刷センター
〒862
熊本市鹿埴瀬町496-1

